

## (9) 四国



四国地域では、景気は回復の動きに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

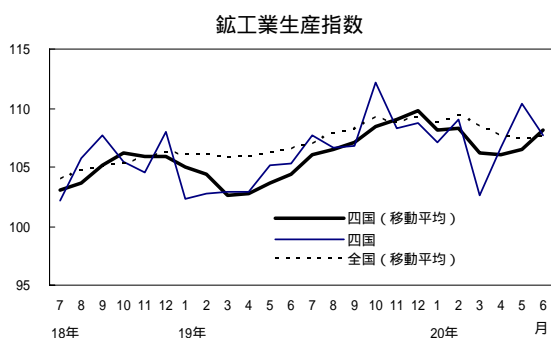
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 20 年 5 月)	今回 (平成 20 年 8 月)	
個人消費	やや弱含み	弱含み	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

化学は、医薬品関連が安定した動きをしているものの、一部で生産設備のトラブルや工場の定期修理があったことから、減少している。電気機械は、産業用の非標準変圧器に動きがあったものの、パソコンや携帯電話などに使う蓄電池に反動減がみられたことから、減少している。食料品・たばこは、食料品、調味料の生産に一服感があるものの、清涼飲料水に動きがみられたことから、増加している。パルプ・紙は、前期に低調だったチラシ・広告などの塗工紙に持ち直しの動きがみられたことから、増加している。一般機械は、船舶搭載用貯蔵槽や海外需要の旺盛な化学繊維機械などが好調であったことから、増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。  
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

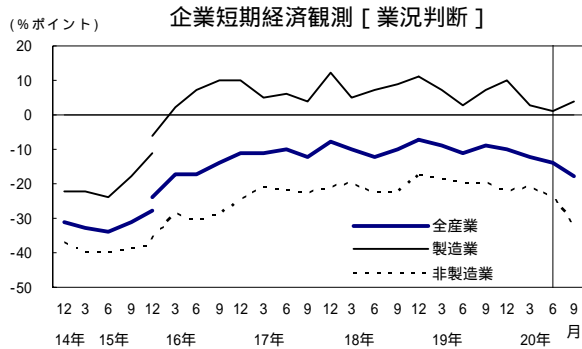
#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
化学	17.1	1.8	1.5	0.7	0.7
電気機械	15.4	4.2	2.4	2.8	28.0
食料品・たばこ	13.6	0.2	4.7	2.4	2.1
パルプ・紙	11.8	1.7	1.6	3.1	3.5
一般機械	8.9	0.2	7.1	3.9	9.2
鉱工業	100.0	3.2	1.9	2.0	2.5

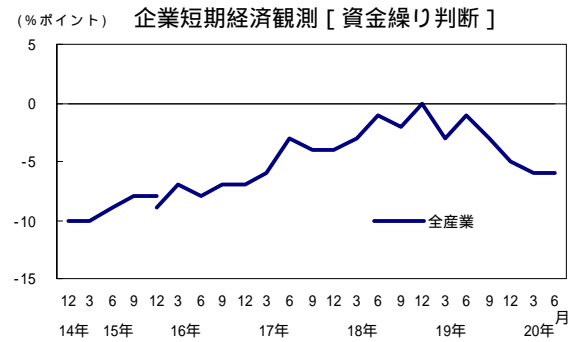
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4~6月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

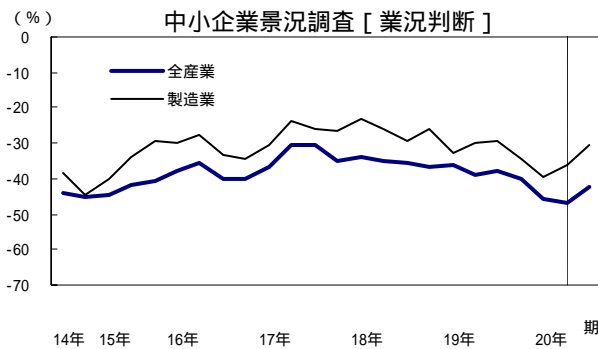
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年9月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

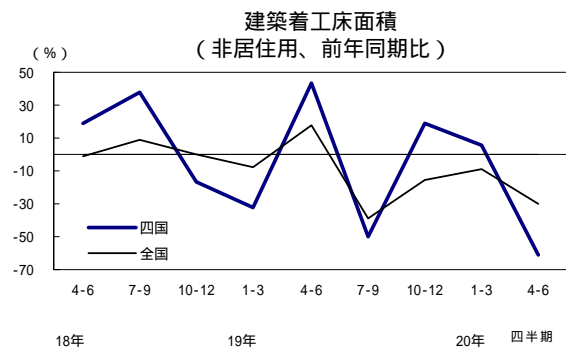
「地場大手の建設業者が倒産した。今年に入って、ナンバー1とナンバー2が倒産したことになる。これは、低額入札で市場をかき乱していた無理な受注競争が原因である(建設業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

#### 企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	16.1 [ 16.1 ]	18.4 [ 25.5 ]
製造業	23.2 [ 23.6 ]	25.0 [ 32.4 ]
非製造業	7.8 [ 7.1 ]	9.4 [ 16.0 ]

(備考)[ ]は前回(3月)調査結果。



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は弱含んでいる。

#### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、改装効果により飲食料品などの動きが良かったものの、天候不順や競合店の影響により来店客数が減少したことから、前年を下回った。5月は、食料品等の相次ぐ値上げによる買い控えで、衣料品や海外ブランド品などの身の回り品が低調だったことから、前年を下回った。6月は、前年の6月末に前倒した夏物のクリアランスセール開始日が、今年は7月だったことなどから、12か月連続で前年を下回った。なお、中国四国百貨店協会によると、四国地区の7月の売上高は前年同月比で4.4%減となっている。

スーパーは、手作り用食材が中国冷凍食品問題の影響や値上げによる販売単価の上昇から好調に推移したものの、衣料品に買い控えがみられたり、期を通じて前年好調だったゲーム機・ソフトの反動があったことから、全体としては前年を下回った。

#### 景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

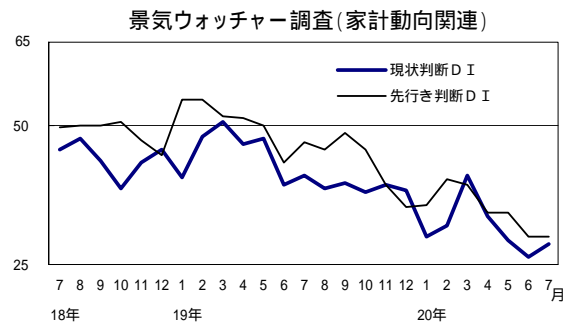
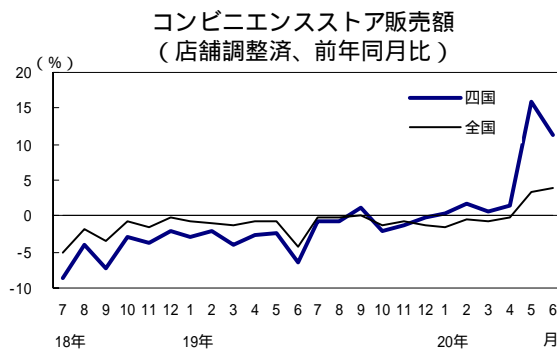
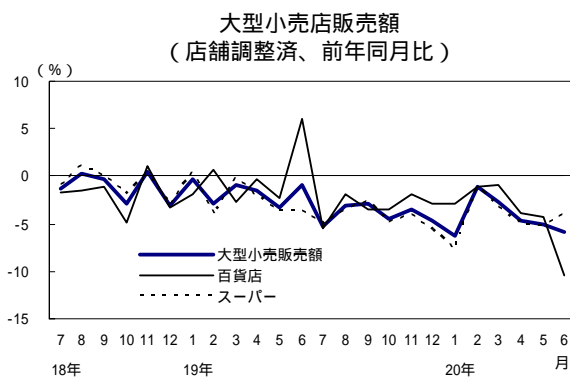
「家計にも原料高、原油高の影響が入ってきている。昼食は、外食から弁当へ、そして、弁当1個の購入も厳しく、100円のパン2個で昼食を済ませるような販売動向がみえてきている(コンビニ)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月
大型小売店	3.8	4.2	3.5	5.2
百貨店	3.9	2.7	1.8	6.2
スーパー	3.7	4.9	4.3	4.8
コンビニ	0.1	1.2	0.9	9.6
景気ウォッチャー	39.7	38.6	34.3	29.7

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

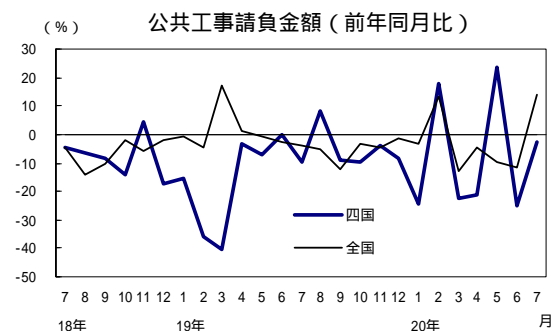
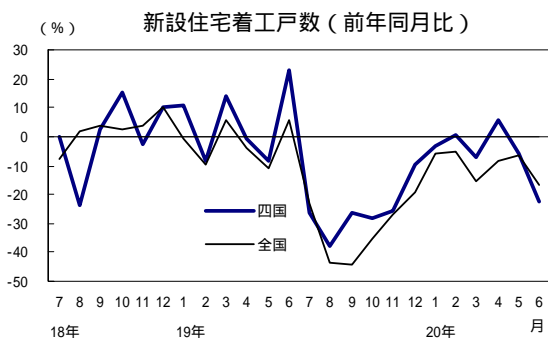
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



### (2) 住宅建設は減少している。

持家、貸家、給与、分譲で前年を下回ったことから、全体でも減少している。

### (3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。

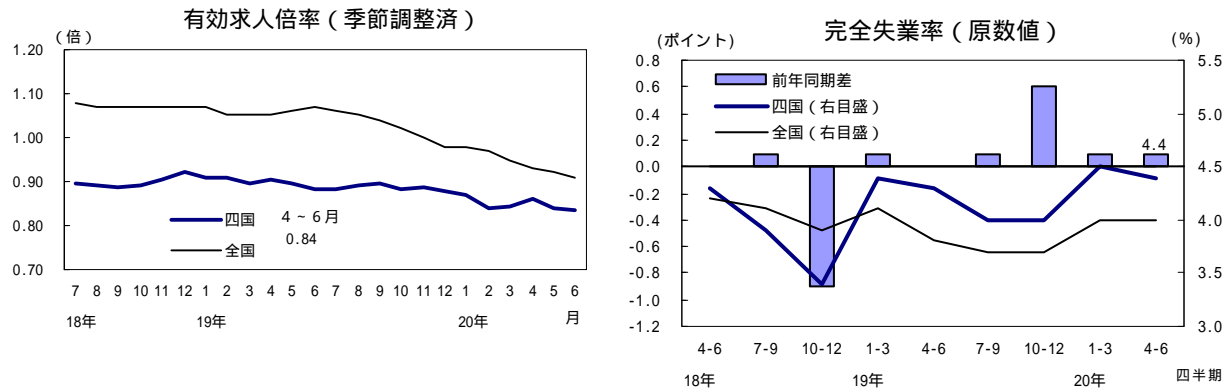


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連(現状)]

「企業の夏季賞与が大部分支給されているが、多くの企業が前年割れとなっており、なかには支給が無い企業もある(民間職業紹介機関)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

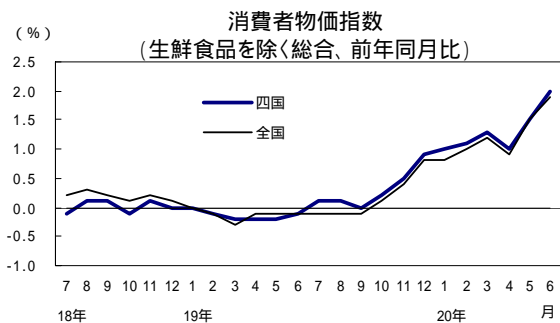
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

7月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月	20年7月
倒産件数	103	92	83	101	41
(前年比)	7.2	1.1	5.1	4.7	24.2
負債総額	306	197	252	345	233
(前年比)	30.8	51.3	78.8	23.8	114.1



景気ウォッチャー調査 (7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・客に「給料は上昇したか」と聞いたところ、上昇したという人は1割、あとの9割は、下落および現状維持ということであった(タクシー運転手)

<先行き>

・エアコン等の夏物に牽引されて数字は好調だが、それ以外のテレビ、パソコン等の売上は非常に厳しい状況である。この傾向が今後も続くと思われる(家電量販店)

